特定非営利活動法人 やじろべー 開設20周年記念

国内外の紛争地や被災地のほか、看とり、在宅医療、地域包括ケアに注目した取材で知られる
写真家・ジャーナリスト

國森康弘さん写真展

いのちつぐ「みとりびと」

日時 2022年

10/28(金) 16:00〜20:00

10/29(土) 9:00〜20:00

10/30(日) 9:00〜15:00

場所 **上田市西部公民館**（旧上田警察署）
長野県上田市常磐城五丁目4番34号

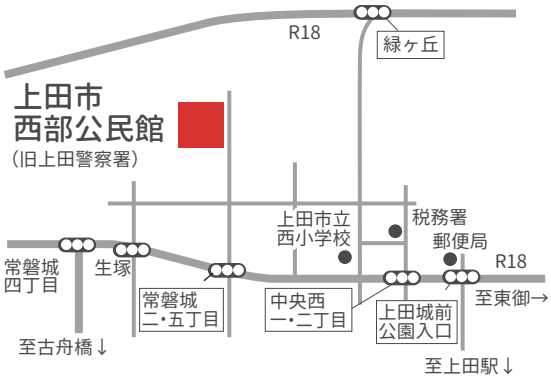
入場無料

この20年間、法人として認知症の人と家族の人権を守るために、社会教育による啓発や臨床の場において様々な相談や地域での支援活動を行って参りました。
宅老所もくれんでは、認知症の人の語りを大切に、生きがいとなるアクティビティの実践、介護者の悩みと共に歩みながら解決へと向かう支援をして参りました。
地域や様々な場面で多くの支援をしてくださった皆様のおかげで、こうして小さな法人とデイサービスが、20年間全力で支援活動を続けることができました。
その感謝の思いを込めて、人生の大切な時間となる看取りについての写真展を開催します。写真を通じて、大切な人のことを想い出しながら穏やかな時を過ごしていただけたら幸いです。

写真絵本『いのちつぐ「みとりびと」』（農文協、全12巻）の第1巻『恋ちゃんはじめての看取り』より

國森康弘さん プロフィール

京都大経済学研究科修士号、英カーディフ大ジャーナリズム学部修士号。新聞記者を経てイラク戦争を機に独立。紛争地や経済困窮地域を回り、国内では戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者を取材。命の有限性と継承性がテーマ。看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影にも注力。最新刊に『写真と言葉で刻む 生老病死 そして生 』（農文協、2020年）。また医療的ケアが必要な子どもたちを写した写真集『笑顔をありがとう』（サンライズ出版、2021年）を出版、学校や病院等500ヵ所に寄贈。写真絵本『いのちつぐ「みとりびと」』（農文協、全12巻）の第1巻で2012年度けんぶち絵本の里大賞。『ご飯が食べられなくなったらどうしますか?』（農文協、共著、2017年生協総研賞受賞）、『アンネのバラ〜40年間つないできた平和のバトン』（講談社）、『家族を看取る』（平凡社）、『証言 沖縄戦の日本兵』（岩波書店）、『TSUNAMI3・11: 東日本大震災記録写真集』（第三書館、共著）、『子ども・平和・未来 21 世紀の紛争』（岩崎書店、共著全５巻）など。2011年度上野彦馬賞グランプリ、ナショジオ国際写真コンテスト2009 日本版優秀賞など受賞。NHKの「おはよう日本」「ハートネットTV」「ラジオ深夜便」、TBS「Nスタ」などに出演。放送倫理・番組向上機構（BPO）放送人権委員会委員。



主　催：特定非営利活動法人やじろべー
後　援：上田市教育委員会

お問合わせ
特定非営利活動法人やじろべー
〒386-0027 長野県上田市常磐城1丁目6−13
TEL 0268-23-8877／FAX 0268-23-9039